



ASPIRE

先端国際共同研究推進事業

2024年度 JST ASPIRE-NSF Global Centers Use-Inspired Research Addressing Global Challenges through the Bioeconomy オンライン説明会

令和6年4月23日（火） 16:00



科学技術振興機構

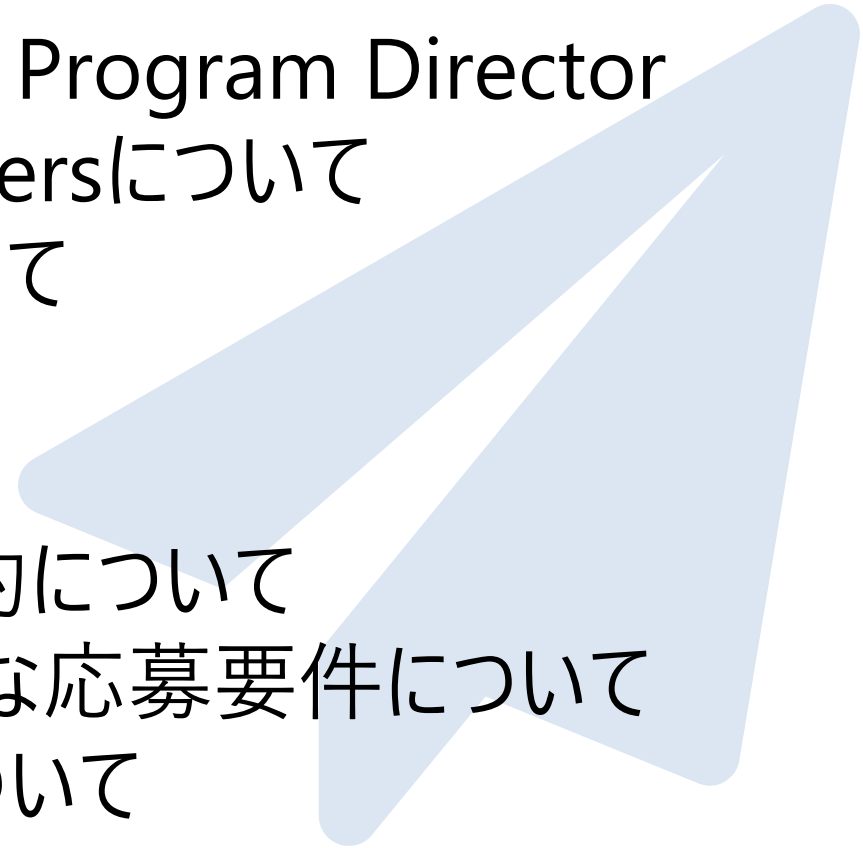
国際部 先端国際共同研究推進室 ASPIREグループ
佐藤、豊福、箕輪

本日のプログラム



ASPIRE
先端国際共同研究推進事業

- 1 事務連絡
- 2 Karen R Lips, NSF Program Director
NSF Global Centersについて
公募のテーマについて
- 3 JST
ASPIREについて
今回の公募の目的について
ASPIREの特徴的な応募要件について
申請上の注意について
- 4 質疑応答



先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）とは

ASPIRE

先端国際共同研究推進事業

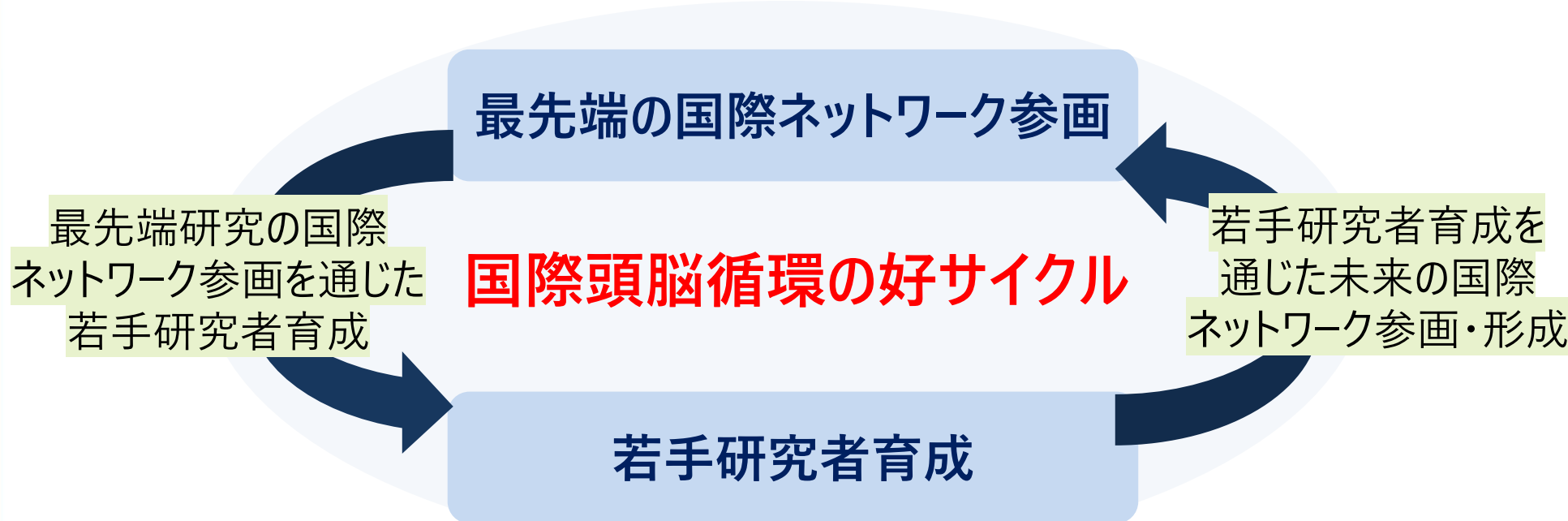
Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem

**トップ研究コミュニティにおける
国際頭脳循環・共同研究の活発化**

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）とは

国際頭脳循環・共同研究の活発化を狙う！！

1. 最先端研究の国際ネットワークへの日本人研究者の参画促進
2. 若手研究者の育成、コネクションの強化を通じた持続可能な国際ネットワークへの参画・連携の土台作り



ASPIRE立ち上げの背景

- ・日本の研究力の低下、最先端研究の国際ネットワークから脱落し始めている
- ・一方、昨今の地政学的変化を受け、科学技術強国において日本との連携を再評価する動き。

全論文数	2008-2010				2018-2020			
	2008 - 2010年 (PY) (平均)				2018 - 2020年 (PY) (平均)			
	論文数 分数カウント				論文数 分数カウント			
国・地域名	論文数	シェア	順位		国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	246,188	22.7	1		中国	407,181	23.4	1
中国	107,955	10.0	2		米国	293,434	16.8	2
日本	64,783	6.0	3		ドイツ	69,766	4.0	3
ドイツ	58,095	5.4	4		インド	69,067	4.0	4
英国	54,116	5.0	5		日本	67,688	3.9	5
フランス	42,811	4.0	6		英国	65,464	3.8	6
イタリア	36,858	3.4	7		韓国	53,310	3.1	7
インド	35,150	3.2	8		イタリア	52,110	3.0	8
カナダ	34,913	3.2	9		フランス	45,364	2.6	9
韓国	31,650	2.9	10		カナダ	43,560	2.5	10

Top10%論文数	2008-2010				2018-2020			
	2008 - 2010年 (PY) (平均)				2018 - 2020年 (PY) (平均)			
	Top10%補正論文数 分数カウント				Top10%補正論文数 分数カウント			
国・地域名	論文数	シェア	順位		国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	36,910	34.1	1		中国	46,352	26.6	1
中国	9,011	8.3	2		米国	36,680	21.1	2
英国	7,420	6.9	3		英国	8,772	5.0	3
ドイツ	6,477	6.0	4		ドイツ	7,246	4.2	4
フランス	4,568	4.2	5		イタリア	6,073	3.5	5
日本	4,369	4.0	6		オーストラリア	5,000	3.0	6
カナダ	4,078	3.8	7		インド	4,926	2.8	7
イタリア	3,450	3.2	8		韓国	4,509	2.6	8
オーストラリア	2,941	2.7	9		...	...	...	...
スペイン	2,903	2.7	10		日本	3,780	2.2	12

- ・論文の質の低下
- ・重要な国際会議における日本人招待講演者・等の減少
- ・サイエンス誌における日本人査読者の減少、等

日本の総論文数は増えているが
Top10%論文数は減少

出典：科学技術指標2022 (科学技術・学術政策研究所)

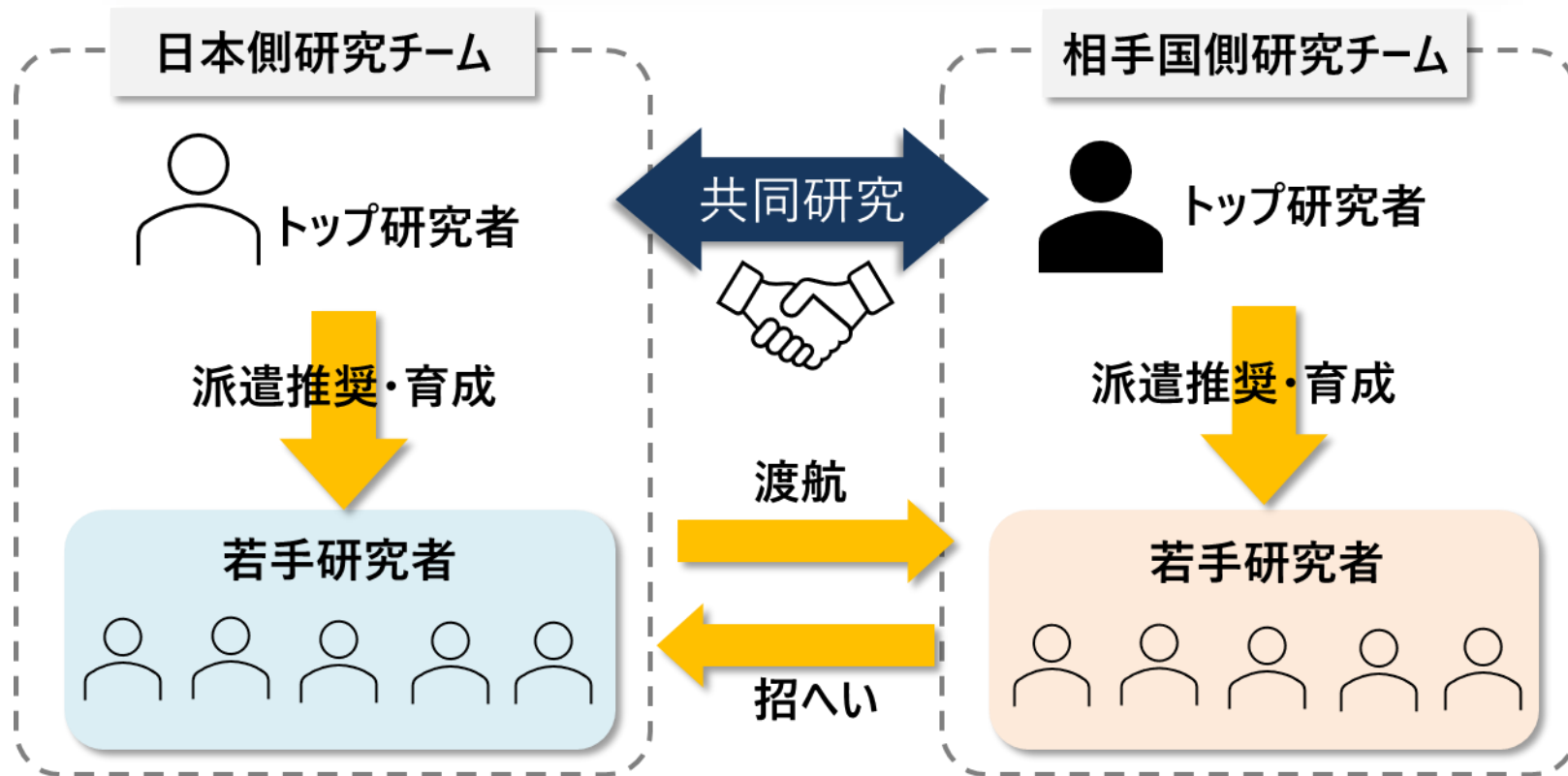
国としての政策・方針

第6期科学技術基本計画

・「**海外の研究資金配分機関等との連携を通じた国際共同研究**や、魅力ある研究拠点の形成、**学生・研究者等の国際交流**、世界水準の待遇や研究環境の実現、大学、研究機関、研究資金配分機関等の国際化を戦略的に進め、**我が国が中核に位置付けられる国際研究ネットワークを構築**し、世界の優秀な人材を引き付ける。」

ASPIREについて

トップの研究コミュニティにおける 国際頭脳循環・共同研究の活発化



ASPIREについて

Top Down

文部科学省

分野

AI・情報
バイオ
エネルギー
マテリアル

量子
半導体
通信



対象国・地域

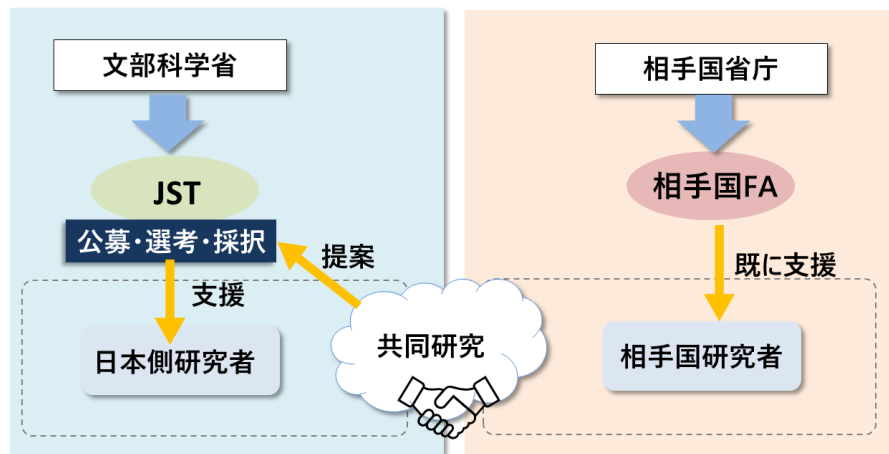
米国、EU、イタリア、オーストリア、
オランダ、スウェーデン、スペイン、
チェコ、デンマーク、ドイツ、フィンランド、
フランス、ベルギー、ポーランド、
ポルトガル、英国、スイス、
ノルウェー、カナダ、オーストラリア、韓国

国が定める分野、対象国・地域との国際共同研究を通じた
ネットワーク作り等を支援

大学・国立研究開発法人等

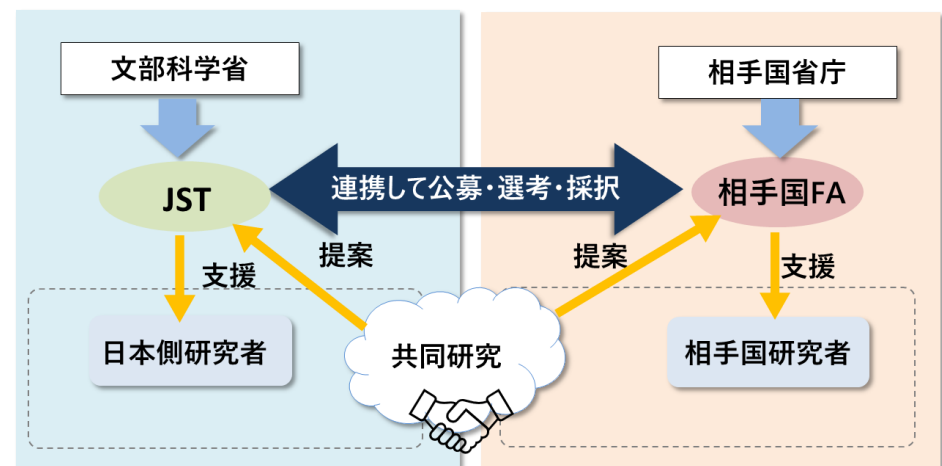
ASPIREについて

単独公募



日本側提案者による提案を募集
(相手国側研究者は他のプログラムで既に支援を受けている、又は今後支援を受けることが決まっている必要あり)
⇒ 採択後JSTは日本側研究者に資金を配分

共同公募



日本側研究者と相手国側研究者
による提案を募集
⇒ 採択後JSTは日本側研究者、
相手国FAは相手国側研究者に
資金を配分

ASPIRE 2024年度バイオ分野公募について

	共同公募		単独公募	
			Top枠	次世代枠
研究分野	バイオ	バイオ	AI・情報、バイオ、エネルギー、マテリアル、量子、半導体、通信	
対象国・地域	英国	米国、カナダ、フィンランド、韓国、英国	米国、英国等の科学技術先進国・地域	
支援規模	最大1.8億円 （直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大2.34億円）／原則3年間	最大3.8億円 （直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大5億円）／5年間	最大3.8億円 （直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大5億円）／5年間	最大6,900万円 （直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大9,000万円）／3年間
公募期間	1/15～4/16 （公募終了）	3/19～6/11	3/8～5/9 （公募中）	
支援方式	JSTは日本側研究者、相手国FAは相手国側研究者の活動費を支援		JSTは日本側研究者の活動に加え、相手国からの相手国側から招聘する研究者等の渡航費、報酬等も支援	

※2024年度ASPIRE公募内（JSTが実施する単独公募、共同公募及びAMEDが実施する公募）での研究代表者としての重複応募はできません

ASPIRE - 米国NSF Global Centers公募 「バイオエコノミー」について

- ◆ 本公募は米国国立科学財団（National Science Foundation: NSF）のが主導するGlobal Centersと連携して実施。
- ◆ Global Centersは、米国を含む対象国間で、地球規模課題の解決に向けた国際共同研究を募集し、二国間、または多国間の最先端で、かつ社会実装まで視野に入れた課題を支援。
- ◆ 研究チームは、米国側研究者・チームの参加を必須とし、日本、カナダ、フィンランド、韓国、英国から1カ国以上の研究者・チームの参加により構成。
- ◆ JSTは、ASPIREの枠組みで、日本側研究者を支援。

本公募の目的

- ◆ Global Centersでは、国際共同研究の実施に加えて、**若手研究者を中心とした人材育成計画を研究計画に盛り込む**こととしている。
- ◆ 本公募における日本側研究者は、トップ研究者として国内・外で卓越した研究実績があり、研究者は潤沢な研究資金を得ていることが前提。
- ◆ 日本側研究者には、相手国研究者との国際共同研究に加えて、次のような**国際的な研究コミュニティへの持続的な参画および連携の土台作りに資する活動**を期待。
 - ①最先端な研究開発につながる国際的ネットワークの構築・拡大
 - ②国際頭脳循環を促進し国際的なトップ水準の研究機会を若手研究者等へ提供するなど次世代のトップ研究者になることが期待される若手研究者等の育成

ASPIRE - 米国NSF Global Centers公募

相手国研究者 支援機関

◆ 本公募に参加する各国の資金配分機関（FA）は次のとおりで、それぞれの国のFAがそれぞれの国の研究者を支援

米国：National Science Foundation (NSF), National Endowment for the Humanities (NEH)

カナダ：Natural Sciences and Engineering Research Council (NSERC), Social Sciences and Humanities Research Council (SSHRC)

フィンランド：Research Council of Finland (RCF), Business Finland (BF)

韓国: Ministry of Science and Information and Communication Technology (MSIT), National Research Foundation (NRF)

英国：UK Research and Innovation (UKRI)

米国側研究者および米国以外の対象国の研究者の要件については、NSFの公募要領を参照してください。

公募テーマ

バイオ (Biotechnology) 分野

公募テーマ：バイオエコノミー

Topic 1: Leveraging Biodiversity Across the Tree of Life to Power the Bioeconomy.

Topic 2: Biofoundries, using Design-Build-Test-Learn process in biology.

Crosscutting Theme A: Public engagement and co-generation of research activities to strengthen the global science and technology enterprise

Crosscutting Theme B: Workforce Development and Education.

提案する研究内容は、Topic 1、Topic 2 のどちらか、またはどちらにも関連するものにしてください。Crosscutting Theme A と B は、どちらとも研究内容に含める必要があります。

公募スケジュール

- ・書類審査期間：2024年6月～7月
- ・面接審査期間：2024年7月24、25日（予定）
- ・審査結果通知：2024年9月上旬（予定）
- ・研究開始：2024年11月（予定）

※面接審査は、日本側研究代表者のみを対象に実施します。面接に進まれる方へは、原則として面接審査日の2週間前までに電子メールにてご連絡します。

応募される場合は、

5月10日までにJSTへ事前連絡をお願いします！

※詳細は公募ページをご確認ください。

ご応募をお待ちしています

ASPIRE事業に関するお問い合わせ

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

国際部 先端国際共同研究推進室

E-mail : aspire@jst.go.jp

本共同公募に関するお問い合わせ

日米Global Centers公募担当

E-mail : aspire-gc@jst.go.jp

日米共同公募における特徴的な応募要件

国際ネットワークづくり・頭脳循環促進のために、、、

- ①原則1年程度の相手国側での研究実施
- ②相手国側から有望な若手研究者等を招聘
- ③予算の用途制限

日米共同公募における特徴的な応募要件①

①原則1年程度の相手国側での研究実施

日本側研究チームには相手国へ渡航する**若手研究者等の参加を必須**とし、原則1年程度相手国側で研究活動を実施する必要があります。

渡航する若手研究者等は原則、下記（i）、（ii）のいずれかに該当するものとします。

渡航する研究者の人数に制限はありません。

（i）修士・博士課程（博士前期・後期課程）に在籍する学生であること

（ii）大学、公的研究機関等で研究活動を行う研究者で学位取得後15年程度以内であること

※上記渡航者に加えて、条件に該当しない研究者による渡航も可能です。

日米共同公募における特徴的な応募要件②

②相手国側から有望な若手研究者等を招聘

提案書の中に、相手国側から有望な若手研究者等を招へいする計画を盛り込む必要があります（基本的には中長期で滞在し、日本での研究や日本の研究者との交流を通じたネットワーク構築等が期待されます）。

※相手国側から招聘する研究者等への渡航費、滞在費、研究費、報酬等を支出することができます。

日米共同公募における特徴的な応募要件③

③予算の用途制限

直接経費総額の 7 割以上を目安として最先端な研究開発につながる国際的ネットワークの構築・拡大や、国際頭脳循環を促進し国際的なトップ水準の研究機会を若手研究者等へ提供するなど次世代のトップ研究者になることが期待される若手研究者育成を目的として使用するものとします。

例)

- ・トップ研究者・若手研究者間のコネクション強化を目的としたWS開催
- ・相手国側への若手研究者の渡航費、と渡航後に発生する費用
- ・招へいに係る費用（渡航費、滞在費、報酬など）
- ・渡航や交流の実施にかかるコーディネート業務を行うスタッフの人件費等

※研究推進のみを目的とした雇用や物品費等は本費用には含まれません

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点①

渡航・招へい計画について

- ・渡航・招へいを実施することが目的になってしまっている
- ・渡航・招へいの計画について概要の記載しかなく、誰が、どこに、どれくらい、何をしにいくか、等の具体的な情報が不足
- ・実際に渡航できる人材がチームの中にいるのか不明
- ・とくに直近（初年度・次年度）についての具体的な内容が記載されていない
- ・一方的な渡航計画に終始しており、招へいや相手側との相乗効果への施策がない

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点①

- ・渡航・招へい計画には下記を含めて**具体的な記載**をしてください。
 - ・渡航（招へい）者の実名
 - ・渡航（招へい）期間
 - ・渡航（招へい）先
 - ・渡航（招へい）先での役割

役割 [□]	氏名 [□] (渡航期間※ ²) [□]	機関名および部署名 [□]	役職 [□] (学年) [□]	学位 [□]	専門分野 [□]
研究代表者 [□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
主たる共同研究者※ ¹ [□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
渡航する研究者※ ² [□]	[□] (20XX年X月～ 20XX年X月) [□]	[□]	[□]	[□]	[□]
研究参加者 [□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]

※2024年度の申請書では、日本側・相手側チームメンバー表に渡航・招へい者の実名、渡航期間の記載などが必要です。

- ・日本側からの渡航だけでなく必ず双方向のでの研究者の行き来を計画してください。

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点②

他制度での助成について

- ・一般的な競争的研究費と同じように、他の助成で申請している研究内容と重複してはいけない、との考えから、敢えて別途、研究内容・テーマをけて申請しているケースあり

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意②



他制度での助成について

- ・申請書に他制度での助成状況を記載する項目がありますが、重複を確認する項目ではありません。
- ・基盤となる研究費が確保されているかを確認します。

ASPIREは、すでに実施している基盤となる研究活動に対して、国際ネットワーク構築や頭脳循環に資する活動を実施していくための支援を実施します。

他で支援を受けている助成の研究内容
と敢えて研究内容を変える必要はありません。

● 他制度での助成等の有無（日本語）

Subsidies under Other Schemes

（本項目は、本公募の趣旨に沿った国際ネットワーク構築や国際頭脳循環に資する若手研究者等の育成に関する研究活動を遂行する上で、基盤となる十分な研究資源（研究資金、人的・物的資源等）を備えているかを確認するための項目となります。本提案との研究内容の重複して申請するものではありません。）

【注意事項】

- ・研究代表者および主たる共同研究者が、現在受けている、あるいは申請中・申請予定の国の競争的研究費制度（先端国際共同研究推進事業を含む）やその他の研究助成等（民間財団・海外機関を含む）について、研究課題ごとに、研究課題名、研究期間、役割、本人受給研究費の額、エフォートを記入してください。日本側応募者への応募にあたっての注意事項「第4章 応募に際しての注意事項」もご参照ください。
- ・記入内容が事実と異なる場合には、採択されても後日取り消しとなる場合があります。
- ・本提案課題を必ず1つ目に、次にその他研究課題を本人受給研究費（期間全体、総額）が多い順に記入してください。
- ・必要に応じて行を増減してください。

研究代表者： 氏名 （所属 役職）

番号	制度名	受給状況	研究課題名 (代表者氏名)	研究期間	役割 (代表/分担)	(1)本人受給研究費 (期間全体) (2) # (2026年度 予定) (3) # (2025年度 予定) (4) # (2024年度 実績) 2025年度 エフォート (%)
-	2024 ASPIRE FOR TOP SCIENTISTS	申請	提案課題名 (○○○○)	2024.12 - 2030.03	代表	(1) 千円 (2) 千円 (3) 千円 (4) 千円 (1) 千円

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点③

申請書の作成について

全体的な傾向として、、、

- ・申請書に記載されているガイドをよく読んでいない
- ・申請書に記載されているページ数を守っていない
- ・文章が冗長でわかりにくい
- ・同じ文章・内容が繰り返されている
- ・具体的な記載がない
- ・文字のフォントが小さい

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意③



申請書の作成について

- ・申請書にはグレーのイタリックで詳細なガイドが記載されています。必ずガイドを読み、ガイドに沿って申請書を記入してください。
- ・各項目にページ制限を設けていますので、制限内で簡潔に、文章、表現や内容の繰り返しを避けてください。

- 日本側 研究代表者の実績（日本語） —5 頁以内—

Achievements of Japan-based Principal Investigator— up to 5 pages—

←

- 研究者情報（Researcher information） ←

（1）URL： ←



※ORCID のリンクを貼り付けてください（ORCID ID をお持ちでない場合は、Publons、Google Scholar（※マテリアル分野においては Google Scholar 不可）の研究者情報ページのリンクを貼り付けてください）。 ←

ガイド

←

（2）研究代表者の経歴 ←

※職歴（年表）を記載してください。大型プロジェクトなどの主催経験があれば職歴の中にあわせて記載してください。 ←

←

←

2023年度単独公募 研究活動支援事例

2月 東京 量子分野 中辻課題シンポジウム



3月6日 広島 半導体&通信分野 キックオフミーティング&ネットワーキング



ASPIRE NEWS 2024年2月 第2号

ASPIRE NEWS

Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem

電子情報通信学会 総合大会@広島大学
ASPIREのイベント開催します！詳しくは裏面で。
3月5日(火) 13:45-17:00 ワークショップ
3月6日(水) 13:45-18:30 キックオフミーティング
ミライクリエIF 多目的ホールにて

総合大会にご参加の方は
どなたでもお越しいただけます

通信の顔

ASPIRE 研究主幹
山中 直明氏



進化のスピードが速く、社会・経済へのインパクトのきわめて大きい通信分野。JSTが新しい人間環境支援事業ASPIREで通信分野のチームグループ化の研究をとり進めるのが、研究主幹 (Program Officer) の山中直明氏だ。日本の通信分野の一端を握ってきた者として、ASPIREは日本の研究者や研究環境が対外的な視点でインフラを脱し、世界のトップ研究に参入してグローバルな「集知知」を獲得し、その中心的存在になる。最後のチャンスだと言う。

細沢諭吉は「Nocty」を「人間交際」(じんかんこうさい)と日本語訳した。これは、社会とは数値や道徳といったインフラや経済のみではなく、人となりがつながら、考え、協調して暮らすことである、という意味です。さらに、交際の拡大が知能の発達をもたらし、交感を改良するプロセスを文明の発達であると考えています。通信はグローバルソリューションですので、国際連携による研究を行い、論文発表のみではなく標準化やコンソーシアムで結果を出すことがきわめて重要で、ASPIREの支援により活動する研究者には、既存のネットワークを活かし国際的なトップサークルに入ることもちろん、ある領域のトップサークルを自ら作ることをお願いしたいと思います。

山中氏は慶應義塾大学修士課程修了後、理研NTTへ入社。米電気学会 (IEEE) の最優秀論文アワードを複数回受賞し、2009年には同学会の当時日本人最年少フェローとなった。電子情報通信学会 次期会長、Phonics Interact Lab 代表、慶應義塾大学理工学部情報工学科教授。

ASPIREの支援対象は個人ではなく、支援対象者は公募により選出します。公募情報はASPIREのウェブサイトで公開します。最新情報はASPIREのウェブサイトをご覧ください。ASPIRE: <https://www.jst.go.jp/aspire/index.html>

2023年度単独公募 研究活動支援事例

3月13～15日 東京 EMBO（欧州分子生物学機構（バイオ分野）とのワークショップ
PI杉本先生ご登壇



3月26日 東京 通信分野 シンポジウム&ASPIREキックオフ 中尾課題

 東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

 ASPIRE
先端国際共同研究推進事業

参加費無料

東京大学 次世代サイバーインフラ連携研究機構 シンポジウム
「ライフライン」としての
次世代サイバーインフラ

日時 2024.3.26 9:50 START

会場 東京大学 本郷キャンパス 工学部11号館 KUMA HALL



13:50～14:50 【第3部】次世代サイバーインフラの創成に向けた海外連携

13:50～13:55 ASPIREにおける海外連携

13:55～14:15 Finlandにおける次世代サイバーインフラの取り組み


中尾 彰宏
東京大学 次世代サイバーインフラ連携研究機構・機構長、工学系研究科・教授


Matti Latva-aho
Director of 6G Flagship
Professor, Centre for Wireless Communications,
University of Oulu, FINLAND
Global Fellow, School of Engineering, The
University of Tokyo, JAPAN

ご清聴ありがとうございます

Google

JST ASPIRE

すべて ショッピング 画像 ニュース

約 760,000 件 (0.57 秒)



国立研究開発法人 科学技術振興機構

<https://www.jst.go.jp/inter/aspire>

先端国際共同研究推進事業(ASPIRE)

先端国際共同研究推進事業(ASPIRE) ... 我が国の研究コミュニティ
することを目指すものです。JSTトップ> 先端国際共同 ...

https://www.jst.go.jp/program/announce_aspire2023

2023年度 先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE) 研究提案の ...

1 日前 — JSTは、我が国の科学技術力の維持・向上を図るため、優秀な若手研究者等の科学技
術先進国への渡航や海外からの若手研究者の招聘、トップレベルの国際共同 ...

JST ASPIRE

で検索 
またはQRコードから



https://www.jst.go.jp/inter/aspire/program/announce/announce_aspire2023.html

応募締切 2024年6月11日 (金) 17:00

日米GCお問合せ：aspire-gc@jst.go.jp



質疑応答

NSF Global Centersについての質問、公募テーマについての質問は英語でお願いします。

NSF Solicitation

<https://new.nsf.gov/funding/opportunities/global-centers-gc/nsf24-556/solicitation>

JST公募要領

https://www.jst.go.jp/aspire/program/announce/announce_aspire2024_gc.html

事前にいただいた質問への回答

Q1. 複数国で応募して日本だけ不採択の可能性もあるのかを知りたいです。

A1. 複数国のうち一か国でも不採択と判断したらその課題は不採択になります。

Q2. Bioeconomyの具体的内容

A2. NSFで出している公募要領（Solicitation）をお読みください。2つのテーマについての詳細と研究事例が出ています。

Q3. 「不合理な重複・過度の集中に対する措置」の対象となる事例

A3. 説明にありました通り、ASPIREは、すでに実施している基盤となる研究活動に対して、国際ネットワーク構築や頭脳循環に資する活動を実施していくための支援を実施します。他で支援を受けている助成の研究内容と敢えて研究内容を変える必要はありません。
ただし、本公募の趣旨に類似するプログラムで同じ規模の研究費を受給している、または申請中である場合は、当該研究費および本公募の両方から受給する意義を明記していただきます。

質疑応答

Q4. 座組の規模

A4. 米国を含む 2 か国またはマルチでの応募となります。それぞれの国のFAが自国の研究者を支援します。

Q5. 研究分野の詳細（どの程度まで拡がりがあるのか）

A5. この2つのテーマは非常に幅広く、NSFが通常資金を提供しているあらゆる科学分野から研究を提案できるはずです。重要なのは、提案される研究が学際的かつ国際的であり、すべての学問分野とパートナーが1つの全体的なプロジェクトにうまく統合されていることです。プロジェクトは、ある種の世界的な課題に取り組むもので、このような学際的で国際的なチームによってのみ取り組むことができる問題を調査するものでなくてはなりません。

The 2 themes are quite broad and should allow for proposed work from any scientific field that NSF normally funds. What is important is that the research that is proposed is interdisciplinary, and international, and that all the disciplines and partners are well integrated into one holistic project. The project should investigate a question that would address a global challenge of some sort and that can only be addressed through these multidisciplinary and international teams.

質疑応答

Q6 日本側の予算がかなり大きく見えます、どのくらいのチーム規模からの応募を想定されていますか？

A6. はい、大規模になります。国際的なチームがバイオエコノミーの科学を利用して、国際的な協力によってのみ対処可能なグローバル・チャレンジに取り組むためのリソースを提供することを目的としています。

These are large awards, meant to provide resources that would allow international teams to use the science of the Bioeconomy to address a Global Challenge that could only be address through international collaborations.